

第9回噴火湾ホタテガイ情報(2013年) 発行日：平成25年12月18日

発行：函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、協力：胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

海底直上の溶存酸素濃度は4.5~5.5mL/Lと十分あります(図1、3-)。秋に形成された貧酸素水塊は、完全に解消されています。深度40mでの塩分は33.6と高く、湾内は流入した津軽暖流水で満たされています(図2、3-)。水深50m以浅は水温11.0・塩分33.7でほとんど変動がなく(図4)ホタテはストレスなく成長できる状況です。

今年は、津軽暖流の流入は早く7月には始まりました。また、環境が一様な混合層の深度も、現在は50mと、深くなっています。したがって、秋季に稚貝が大量へい死した2009年に観察された3つの特徴的な環境のうち2つは(下記と)今年は見られませんでした。の「貧酸素水塊解消の遅れ」については、今年の10月調査がシケで中止になったため判断出来ませんでした。大量へい死した2009年に観察された3つの特徴的な環境：津軽暖流流入の遅れ、貧酸素水塊解消の遅れ、混合層発達遅れ。

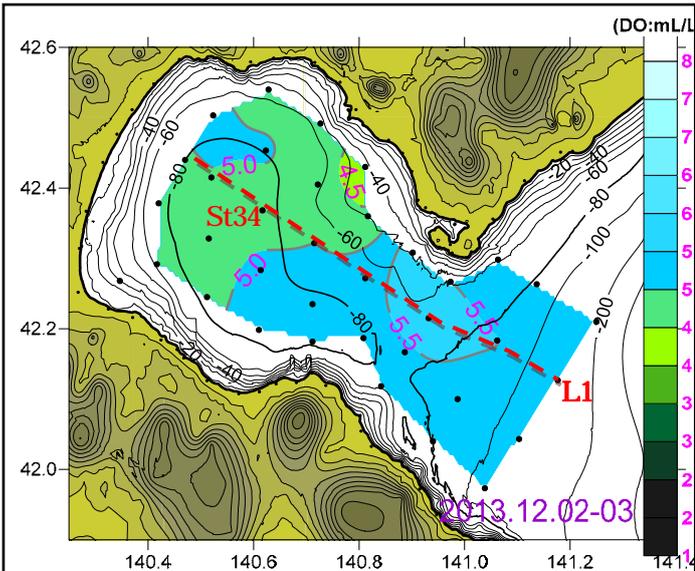


図1 海底上5mの溶存酸素濃度 (2013年12月2-3日)

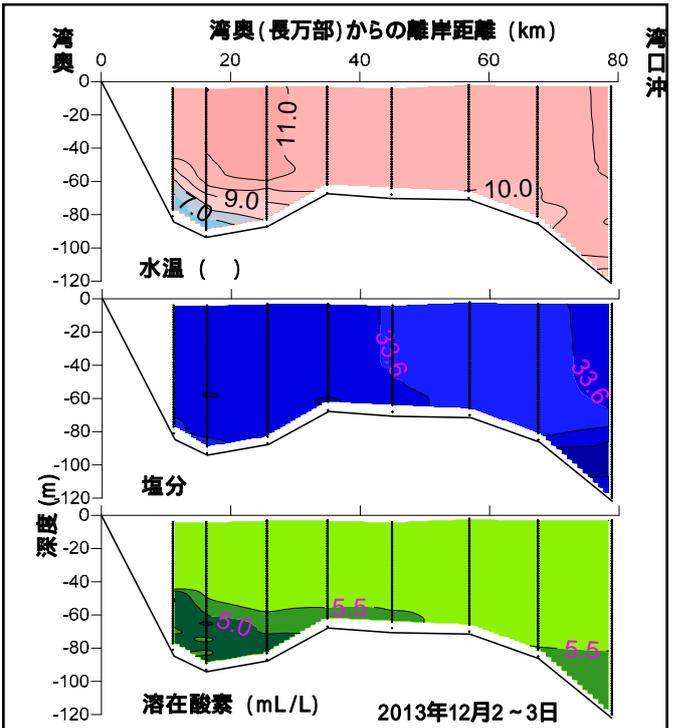


図3 噴火湾縦断面(図1-L1)の環境変数分布(2013年12月2-3日)

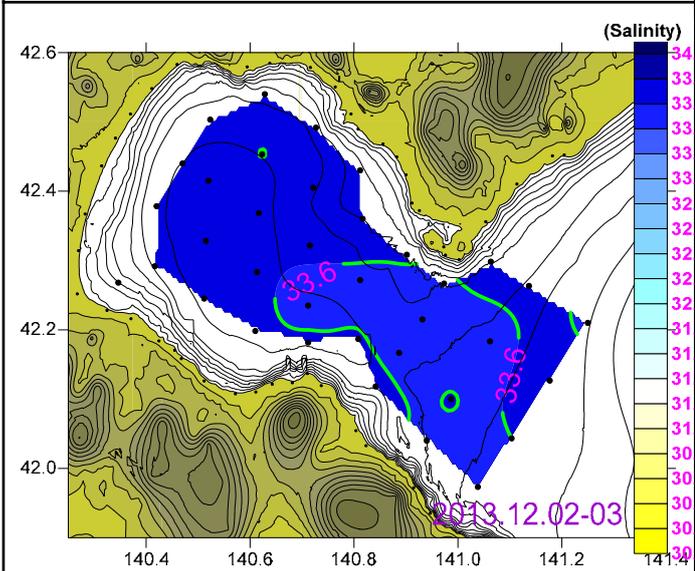


図2 深度40mの塩分分布 (2013年12月2-3日)

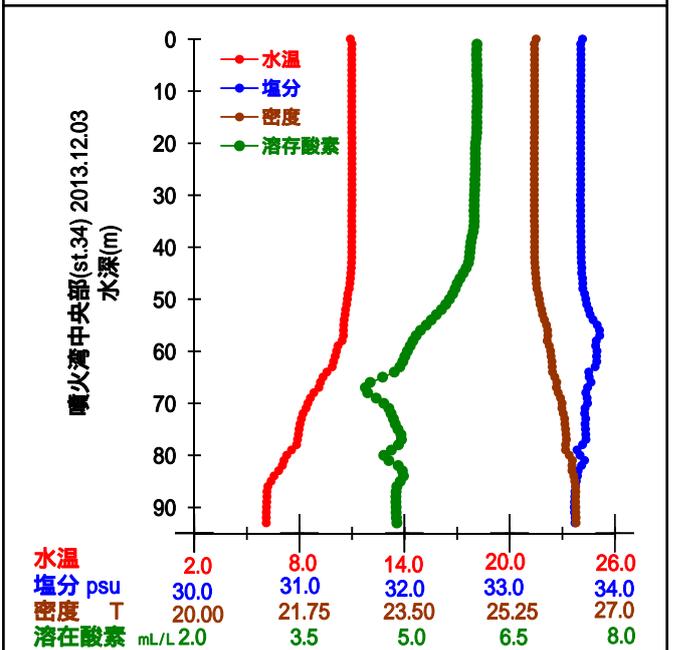


図4 最深地点(図1-st.34)の水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直分布(2013年12月3日)

次回の海洋観測は、2月17日の週に、釧路水試試験調査船「北辰丸」で実施する予定です。

(連絡先：函館水産試験場 馬場・金森・佐藤 TEL:0138-57-6074)

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>